

## 2020 年度

## 授業概要

科目名	言語発達学			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	前期	必修・選択	必修

## 〔授業の目的・ねらい〕

言語発達障害児のコミュニケーションおよび言語の症状を把握し、それぞれの障害の発生機序を理解する。

## 〔授業全体の内容の概要〕

子どもの前言語期から児童期までの各発達段階の言語能力、抽象概念、論理性などの知能、思考の発達を学ぶ。

## 〔講師の実務経験〕

丹波市おひさまにここクリニックにて言語聴覚士として26年間勤務

## 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

言語発達に障害をもつ子どもたちへの言語治療臨床を進める上で言語発達学は最も基本的で重要な学問である。特に、ことばの発達を学ぶ中に、多くの治療臨床に役立つヒントが含まれており、知識の習得だけでなく、実践的な講義を展開させるので、学習を深めてほしい。

回数	講義内容
1	第1章 ことばの発達の理論的基礎（前）
2	第1章 ことばの発達の理論的基礎（後）
3	第2章 乳児期におけるコミュニケーションの発達（前）
4	第2章 乳児期におけるコミュニケーションの発達（後）
5	第3章 語意味の発達（前）
6	第3章 語意味の発達（後）
7	第4章 発話構造の発達（前）
8	第4章 発話構造の発達（後）
9	第5章 社会的文脈における語用論的知識の発達
10	第6章 「心の理解」とコミュニケーションの発達（前）
11	第6章 「心の理解」とコミュニケーションの発達（後）
12	第7章 物語ることの発達
13	第8章 文字の知識と音韻意識（前）
14	第8章 文字の知識と音韻意識（後）
15	講義のまとめ

## 【 準備学習・時間外学習 】

--

## 【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
乳幼児期のことばの発達とその遅れ		ミネルヴァ書房

## 【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

筆記試験にて評価する。